

その短歌が神戸新聞文芸に掲載されたのはちょうど10年前である。〈出席者二人っきりの戦友会解散決めて挙手して別る〉（丸山義隆）。一首は戦後70年という時の流れを如実に

語る◆精神科医の中井久夫さんは戦友会の役割の一つに「相互治癒」、すなわち心のケアを挙げている（「災害と日本人」）。同じトラウマ（心的外傷）体験を持つ仲間との親交で、救われた人がいたのは確かだろう◆戦後80年の今年はその戦争にまつわる記事をずいぶん読んだが、沖縄の元少年兵の話は忘れがたい。悲惨な記憶は戦後も幻覚となって現れ、心をやみ、暴れたこともあった。「兵隊幽霊」。そう呼ばれたという◆戦地では山で寝ていた。90代になつたいまも布団を重ねて山と同じような傾斜をつくり、その上で眠ると落ち着くのだそうだ。この人ばかりではあるまい。戦争トラウマの実相はまだ知られていないことが多い◆きのうで日米の開戦から84年がたった。ふつうの人が兵にとられ、殺し合いをさせられ、大切なものを奪われ、戦後も苦しまねばならなかった。そのわけを、体験者の残した言葉から問い続けなくてはならない◆考えるのをやめ、勇ましい時世の空気に流されたとき、どうなるか。未来に新たな戦友会を生みたくはない。

2025.12.9

2025.12.9

4 傍線部③とは言いかえるとどういことですか。10字程度で書きましょう。

--	--	--	--	--

--	--

--	--

--	--

[illegible]

## NIEワークシートのこたえ（2025年12月9日公開）

### ◆ワークシート「戦争トラウマ(国語)」 2025.12.9付 朝刊 1面 解答

- 1 二人っきり （戦友会解散）
- 2 にょじつ
- 3 記憶 病み
- 4 二度と戦争をしたくない など（同意可）